

路線番号		42	路線名		南紀特急（松阪）
起点—経由地—終点			熊野古道センター—紀伊長島—松阪中央病院		
通過市町村（H13.3.31現在の市町村名）			尾鷲市—海山町—紀伊長島町—大内山村—紀勢町—大宮町—大台町—勢和村—多気町—松阪市		
キロ程（km）		97.3	運行回数（回/日）		4.0
沿線施設	高校	尾鷲高校、相可高校、松阪工業高校、松阪高校			
	病院（20床以上）	尾鷲総合病院、松阪市民病院、松阪中央総合病院、済生会松阪総合病院、松阪厚生病院、第一病院、長島回生病院、大台厚生病院			
	その他	尾鷲市役所、三重県尾鷲庁舎、紀北町役場、紀北町役場（海山総合支所）、大紀町役場、大台町役場、多気町役場			
幹線とする必要性		尾鷲市から松阪中央総合病院を結ぶ非常にキロ程の長い路線であり、沿線居住者の通勤や沿線に立地する病院への通院等の利用に不可欠。			
平成29年度運行状況		輸送量 ^{※1} （補助対象となる輸送量：15～150人）			
		H29年度目標（H27年度実績）	H29年度実績	実績—目標	
		20.0人	21.2人	1.2人	
		輸送人員（平均乗車密度） ^{※2}			
		H28年度実績	H29年度実績	H29年度—H28年度	
		33,845人（5.2人）	34,112人（5.3人）	267人（0.1人）	
		収支状況			
		経常費用	経常収益	経常収益—経常費用	
		96,739,562円	46,494,791円	▲50,244,771円	
		接続する地域内フィーダー系統の状況			
		路線名	H28年度利用者	H29年度利用者	H29年度—H28年度
		紀北町：便ノ山	1,517人	1,753人	236人
		尾鷲市：尾鷲地区	17,650人	19,651人	2,001人
尾鷲市：ハラソ	15,494人	14,695人	▲799人		
尾鷲市：八鬼山	23,682人	25,633人	1,951人		
多気町：幹線バス	7,618人	8,014人	396人		
松阪市：市街地循環	92,766人	91,414人	▲1,352人		
生産性向上のための利用促進策	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県観光連盟HPの熊野古道コーナーにてPR【県観光連盟・三重交通】 ・JR東海企画乗車券「南紀・熊野古道フリーきっぷ」による利用促進（利用可能区間：鷲毛⇄瀬木山・熊野古道センター間）【JR東海・三重交通】 ・旅行会社発行物へ時刻表の掲載【各旅行会社・三重交通】 ・行政情報番組を利用した公共交通利用促進PR事業の実施【紀北町】 ・町営バス路線図（時刻表）の各戸配布及び自治会掲示板等への掲示【多気町】 				
【実施主体】					

<p>県の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・輸送量目標 20.0 人に対し、21.2 人の実績となり、目標を達成することができた。輸送人員についても前年度実績に対して、わずかながら増加させたことから、利用促進策の取組の一定の効果があったものと思われる。 ・当該路線は尾鷲市と松阪市（松阪中央病院）を結ぶ非常にキロ程の長い路線であり、沿線には多くの病院があり、熊野古道への観光目的利用等も想定される多用途で利用できる路線といえる。各自治体等ではさまざまな利用促進策が取り組まれているが、地域住民等のニーズを把握しながら、高齢者等にとって利用しやすい環境づくりや利用しやすい情報提供等をはじめとして、多様な目的での利用促進策を検討する必要がある。 <p>【評価：A】(定量的目標以上の輸送量を達成した路線)</p>
<p>関係市町の意見</p>	<p>【尾鷲市】 本路線の沿線上には、いくつかの大規模病院が存在している。輸送人員も増加しており、ニーズの高さもうかがえるため、沿線住民並びに本市住民にとって、必要不可欠な路線であるものと思料する。</p> <p>【紀北町】 現在は地域内の住民の松阪市までの利用や、他地域からの熊野古道への観光目的での利用が多いが、地域住民の日常生活の足として利用することができれば、尾鷲長島線や島勝線と併用でき、バス路線全体として更に便利なものになると考える。</p> <p>【松阪市】 バスの名前に「特急」と入っている為、特急料金が掛かると思い、利用を敬遠する人が多い。普通料金で乗れる路線バスであるという事をもっと周知していく必要がある。</p> <p>【多気町】 利便性向上のため停留所の移動等を含め利用促進策を検討する必要がある。</p> <p>【大台町】 当該路線は大型病院（松阪中央病院）へ直結した重要な路線であり、また、町内の観光地への利用も想定される多用途で利用できる路線といえる。今後も利用実態を把握し多様な目的での利用促進策を検討する必要がある。</p>

※ 1 輸送量 = 平均乗車密度 [人キロ ÷ 実車キロ] × 運行回数

※ 2 平均乗車密度 = 人キロ ÷ 実車キロ



路線番号		43	路線名		島勝
起点—経由地—終点			瀬木山—尾鷲駅—島勝		
通過市町村（H13.3.31現在の市町村名）			尾鷲市—海山町		
キロ程（km）		24.0	運行回数（回/日）		5.6
沿線施設	高校	尾鷲高校			
	病院(20床以上)	尾鷲総合病院			
	その他	尾鷲市役所、三重県尾鷲庁舎、紀北町役場海山総合支所、紀北町役場（引本出張所、桂城出張所）			
幹線とする必要性		尾鷲せぎやまホールから尾鷲駅及び相賀駅を經由して、旧海山町を結ぶ路線であり、沿線に立地する病院への通院や中心市街地への買物等の利用に不可欠。			
平成29年度運行状況		輸送量※1			
		H29年度目標 (H27年度実績)	H29年度実績	実績—目標	
		16.2人	16.8人	0.6人	
		輸送人員（平均乗車密度）※2			
		H28年度実績	H29年度実績	H29年度—H28年度	
		48,351人（2.9人）	49,804人（3.0人）	1,453人（0.1人）	
		収支状況			
		経常費用	経常収益	経常収益—経常費用	
		34,597,321円	14,545,050円	▲20,052,271円	
		接続する地域内フィーダー系統の状況			
路線名	H28年度実績	H29年度実績	H29年度—H28年度		
尾鷲市：尾鷲地区	17,650人	19,651人	2,001人		
尾鷲市：須賀利地区	2,349人	2,440人	91人		
紀北町：便ノ山	1,517人	1,753人	236人		
生産性向上のための 利用促進策 【実施主体】		<ul style="list-style-type: none"> ・JR東海企画乗車券「南紀・熊野古道フリーきっぷ」による利用促進（利用可能区間：鷲毛⇄瀬木山間）【JR東海・三重交通】 ・尾鷲市須賀利地区から島勝線への乗り継ぎ利用促進（島勝→尾鷲市内 790円→400円（差額負担：尾鷲市））【尾鷲市・三重交通】 ・行政情報番組を利用した公共交通利用促進PR事業の実施【紀北町】 			
県の意見		<ul style="list-style-type: none"> ・輸送量目標 16.2人に対して、16.8人の実績となり、目標は達成できた。輸送人員については、昨年度実績に対して、1,453人増（昨年度は前年度比 376人の減）であり、尾鷲市、紀北町、三重交通等による利用促進策は一定の成果があったと思われる。 ・当該路線は「利用促進対策路線」として、行政、交通事業者で課題の把握等に努め、利用促進対策等の検討、協議を続けているところであるが、輸送実績が少し回復しており、紀北町、尾鷲市、交通事業者での利用促進策の一定の取組効果があったものと思われる。 ・今後も路線の維持・確保に向けて、利用しやすいダイヤ改正等の利用促進策を検討する必要がある。 <p style="text-align: center;">【評価：A】（定量的目標以上の輸送量を達成した路線）</p>			

関係市町の意見

【尾鷲市】

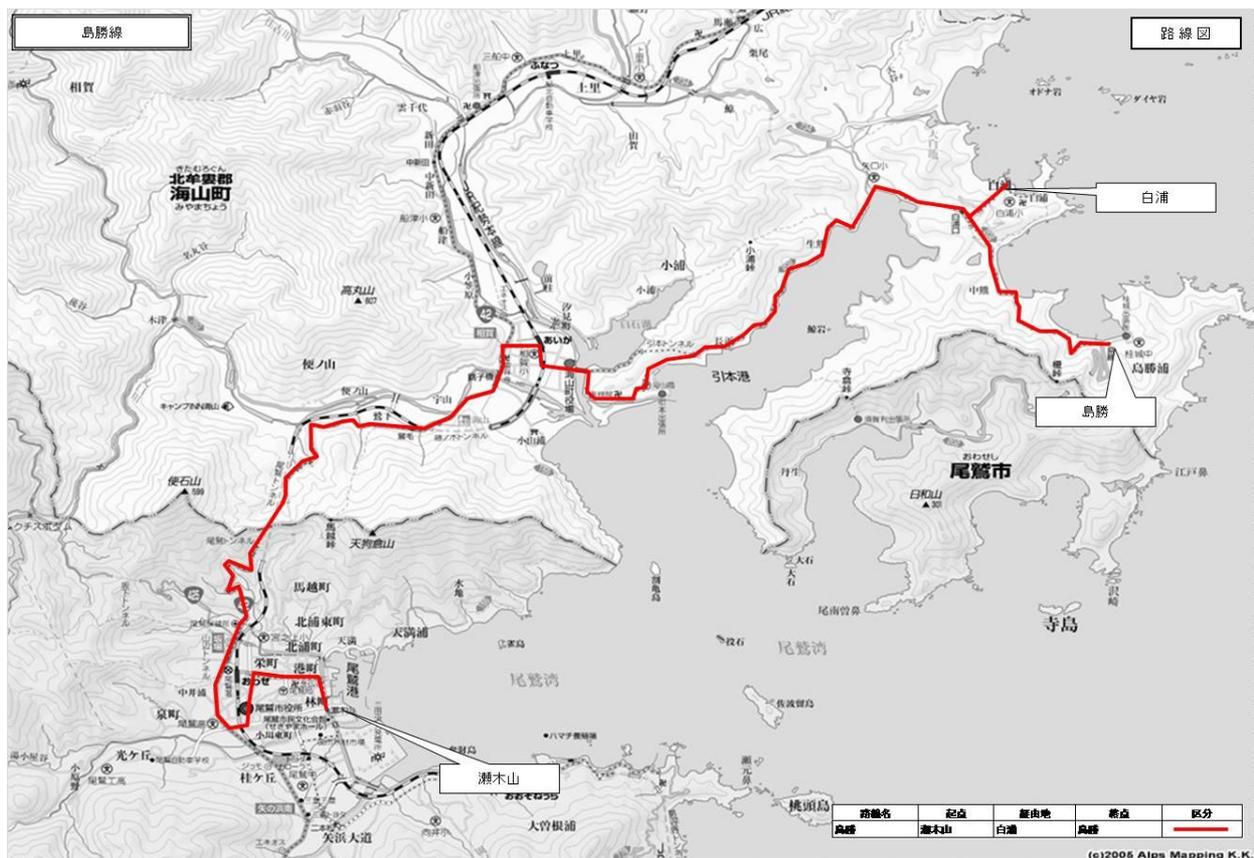
- ・紀北町海山区と尾鷲市を結ぶ路線であり、本市で運行しているコミュニティバスのふれあいバス須賀利線がこの幹線に接続している。須賀利住民にとっては、唯一の公共交通手段であり、通院、買い物など、日常生活のために必要不可欠な路線である。
- ・輸送量は微増であるが、今後も継続して、利用促進に努める必要があるものと思料する。

【紀北町】

- ・現状、同路線は高齢者の買物・通院の利用がほとんどであるため、利用者を増やすためには、高齢者の方に対して更なる利用促進や新規に利用してもらうための施策を行うことが必要である。また、現在ほとんど利用がない高校生の通学に利用してもらうことも効果的だと考える。

※1 輸送量＝平均乗車密度[人キロ÷実車キロ]×運行回数

※2 平均乗車密度＝人キロ÷実車キロ



路線番号		44	路線名		尾鷲長島
起点—経由地—終点			瀬木山—古里—長島駅前		
通過市町村（H13.3.31現在の市町村名）			尾鷲市—海山町—紀伊長島町		
キロ程（km）		30.0	運行回数（回/日）		6.6
沿線施設	高校	尾鷲高校			
	病院(20床以上)	尾鷲総合病院、第一病院、長島回生病院			
	その他	三重県尾鷲庁舎、尾鷲市役所、紀北町役場、紀北町役場（海山総合支所）			
幹線とする必要性		尾鷲市から紀伊長島駅を結ぶキロ程の長い路線であり、沿線居住者の通勤・通学や沿線に立地する高校の生徒の通学、病院への通院、中心市街地への買物等の利用に不可欠。			
平成29年度運行状況		輸送量 ^{※1} （補助対象となる輸送量：15～150人）			
		H29年度目標 (H27年度実績)	H29年度実績	実績－目標	
		16.5人	16.5人	0.0人	
		輸送人員（平均乗車密度） ^{※2}			
		H28年度実績	H29年度実績	H29年度－H28年度	
		60,197人（2.5人）	60,105人（2.5人）	▲92人（0.0人）	
		収支状況			
		経常費用	経常収益	経常収益－経常費用	
		50,875,954円	16,825,926円	▲34,050,028円	
		接続する地域内フィーダー系統の状況			
路線名	H28年度実績	H29年度実績	H29年度－H28年度		
紀北町：便ノ山	1,517人	1,753人	236人		
紀北町：海野	1,759人	1,614人	▲145人		
生産性の向上のための利用促進策【実施主体】	<ul style="list-style-type: none"> ・JR東海企画乗車券「南紀・熊野古道フリーきっぷ」による利用促進（利用可能区間：鷲毛⇄瀬木山間）【JR東海・三重交通】 ・行政情報番組を利用した公共交通利用促進PR事業の実施【紀北町】 				
県の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・輸送量目標16.5人に対して、同数の実績となり、目標は達成した。輸送人員についてもほぼ昨年度実績並みを維持しており、紀北町等による利用促進策は一定の成果があったと思われる。 ・しかし、同路線は「利用促進対策路線」として路線の維持・確保のため、重点的に効果的な利用促進策の検討を進めているが、依然として、補助対象路線となる要件の下限近くでの推移が続いている。 ・同路線は地域住民の通学、通院、買物目的等日常生活の移動手段の他、熊野古道を訪れる観光利用目的等、幅広いニーズが期待されることから、接続するコミュニティバスとの連携や路線の統合等も検討していく必要がある。 <p style="text-align: right;">【評価：A】（定量的目標以上の輸送量を達成した路線）</p>				

関係市町の意見

【尾鷲市】

- ・輸送量は横ばいであるが、引き続き利用者の増加に向けた利用促進に努める必要があるものと思料する。

【紀北町】

- ・現状、同路線は高齢者の買物・通院の利用がほとんどであるため、利用者を増やすためには、高齢者の方に対して更なる利用促進や新規に利用してもらうための施策を行うことが必要である。また、現在ほとんど利用がない高校生の通学に利用してもらうことも効果的だと考える。

※1 輸送量=平均乗車密度[人キロ÷実車キロ]×運行回数

※2 平均乗車密度=人キロ÷実車キロ

